



公益社団法人
東京都理学療法士協会

No.239

都士会 News

2026.8.27 発行
発行 公益社団法人
東京都理学療法士協会
発行人 豊田 輝
帝京科学大学
編集人 井出 大
医療法人社団永生会
法人本部 連携地域支援事業部
〒193-0942
八王子市梶田町 590-4
TEL :042-661-4025

令和 8 年熊本地震により被災されたみなさま

令和 8 年熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

未曾有の災害により、多くの方々が甚大な被害と深いご苦難を抱えておられることに、胸が痛む思いであります。

一日も早く平穏な生活が取り戻されますことを、切に願っております。

また、被災直後より、地域の安全確保、救命・救護、生活支援、復旧活動に尽力されております自治体関係者、医療・福祉従事者、消防・警察・自衛隊の皆様、そして多くのボランティアの方々に対し、深甚なる敬意を表します。

厳しい状況下においても、住民の生命と暮らしを守るために昼夜を問わず活動されている皆様の献身は、私たちに大きな勇気と希望を与えるものです。

公益社団法人として、私たちも引き続き、被災地の復旧・復興に寄与できるよう、専門性を生かした支援と連携を進めてまいります。

被災された皆様が再び安心して生活できる環境を取り戻せるよう、継続的な支援の重要性を強く認識しております。

被災地の日も早い復興と、皆様の心身のご健康を心よりお祈り申し上げます。

公社) 東京都理学療法士協会
会長 豊田 輝

contents

令和 8 年熊本地震で被災されたみなさまへ.....	1	福祉保健局健康増進部.....	13
第 45 回東京都理学療法学会.....	2 ~ 3	地域活性局.....	14 ~ 21
動画配信管理委員会.....	4	スポーツ局スポーツ支援・推進部.....	22 ~ 28
理学療法関連機器開発委員会.....	5	スポーツ局子どもの健康・安全部.....	29 ~ 38
部局紹介 (エスカレーターマナーアップ推進委員会) 6 ~ 7		スポーツ局人材育成部.....	39 ~ 42
エスカレーターマナーアップ推進委員会.....	8 ~ 9	スポーツ局パラスポーツ部.....	43
第 9 回日本産業理学療法研究会学術大会.....	10	学術局学術誌編集部.....	44 ~ 45
渉外局医療報酬部.....	11	編集後記.....	45
ライフサポート部.....	12		

Tokyo PT 2026

第45回

公益社団法人 東京都理学療法士協会



東京都理学療法学会

人を見る 理学療法の原点に 立ち返る

専門性の深化と連携による予防・健康増進への挑戦

2026年 9月13日 SUN

開催方式：対面開催（一部オンデマンド配信あり）

会場

東京都立大学荒川キャンパス

〒116-8551 東京都荒川区東尾久 7-2-10

大会長

古川 順光（東京都立大学）

副大会長

外谷 靖之（社会医療法人社団光仁会 第一病院）

池田 由美（東京都立大学）

準備委員長

田島 敬之（東京都立大学）



大会ホームページ <https://45pttokyo.jp>

事前参加登録は9月6日まで

第45回東京都理学療法学会大会プログラム

2026年9月13日（日） 東京都立大学荒川キャンパス

大会長基調講演 10時00分～10時20分（第1会場：講堂）

「人を見る 理学療法の原点に立ち返る 専門性の深化と連携による予防・健康増進への挑戦」

司 会 中山恭秀（東京慈恵会医科大学）

大会長 古川順光（東京都立大学）

シンポジウム1 10時30分～12時00分（第1会場：講堂）

「人生100年時代を支える予防理学療法」

座 長 田島敬之（東京都立大学）

シンポジスト 儀間裕貴（東京都立大学）

渡邊祐介（東京脊椎クリニック）

市川 壘（フジテック株式会社）

清水夏生（埼玉医科大学）

シンポジウム2 14時10分～15時40分（第1会場：講堂）

「専門性は統合できるのか 「人を見る理学療法」を実践から問い直す」

座 長 古川順光（東京都立大学）

シンポジスト 藤野雄次（順天堂大学）

廣幡健二（東京科学大学）

田屋雅信（東京大学医学部附属病院）

白谷智子（湖街ホスピタル）

教育講演 13時00分～14時00分（第1会場：講堂）

「理学療法における専門性の深化と統合 次世代の研究と実践の方向性」

司 会 新田 収（アール医療専門職大学）

講 師 松田雅弘（順天堂大学）

一般演題発表（口述）11時10分～15時40分

第2会場：大視聴覚室（186教室）、第3会場：182教室、第4会場：183教室、第5会場：382教室）

口述発表1～12 各会場にて、午前および午後に実施

一般演題発表（ポスター）15時50分～16時50分（ポスター会場：体育館）

機器展示 10時00分～15時00分

（機器展示会場：第1会場（講堂）ホール、第2会場（大視聴覚室）ラウンジ）理学療法関連機器等の展示



公益社団法人
東京都理学療法士協会

TPTA動画配信サイト 利用登録のご案内

研修会に行けない日も、臨床の学びは止めない。

まずは利用登録！

臨床に役立つ学びを、いつでもどこでも。

- ✓ 代表疾患の解説や評価のポイント
- ✓ 訪問リハの実際など、現場で活かせる実践知
- ✓ 制度・地域連携の理解が深まるコンテンツ

登録・動画リクエスト・公式SNSは
QRコードからアクセス！

利用登録はこちら▼



専用フォームから今すぐ登録（無料）

コンテンツ一覧

シリーズ（配信中）

- 基礎疾患動画シリーズ
（パーキンソン病、腰部脊柱管狭窄症、フレイル・サルコペニア、肩関節周囲炎、変形性膝関節症、変形性股関節症、COPD、心不全、脳血管疾患、糖尿病、大腿骨近位部骨折 等）
- 解剖学や触察技術シリーズ（肩甲骨周囲骨・筋等）
- 倫理に関する動画（ハラスメント、業務上のトラブルについて）
- リンパ浮腫シリーズ
- キャリア支援シリーズ
（セラピストのキャリア形成-私たちは何を考えながら仕事をすべきか-）
- 物理療法シリーズ
- 痛みの理学療法シリーズ
- 学会連合版MMTシリーズ

今後リリース予定

- 管理／教育シリーズ
- キャリア支援シリーズ
- 介護保険リハビリシリーズ
- 医療保険リハビリシリーズ
- 地域リハビリテーションシリーズ
- 動作分析シリーズ



利用登録の流れ

- 1 JPTAマイページ
セミナー番号で検索

セミナー番号で検索！
- 2 セミナー番号で申込

セミナー番号で申込！
- 3 自動返信メールの
案内URLから
TPTA動画配信サイト
登録を完了

登録を完了！
- 4 申込前に
@japanpt.or.jp を
受信許可

メール受信を許可！
- 5 TPTA会員は無料
JPTA非会員は有料

視聴スタート！

あなたの声が、明日の学びに！
動画リクエストはこちら



動画配信管理委員会へ
動画リクエスト

よりよい動画
をお届けします！

動画リクエスト



こちらからリクエスト！

LINE



最新情報をお届け！

Instagram



フォローをお願いします！

X (旧Twitter)



最新情報をチェック！

理学療法機器・評価測定機器・快適な生活を送るための道具 試作品募集 ＜理学療法関連機器開発委員会 機器開発助成事業＞

東京都理学療法士協会では、機器開発に助成を行います。

DIY で簡便、安価に作成可能な理学療法機器・評価測定機器の試作や、自分自身やご家族の方が日常生活を送りやすくするための道具を作製した方を対象としています。試作品を作製してご応募いただいた場合、最大 3 件総額上限 3 万円まで助成いたします。助成にあたり、試作品作製時のレポート、領収書の提出をお願いしています。領収書は破棄せず保管をお願いいたします。なお、採用された場合、レポートを東京都理学療法士協会ニュースに掲載いたします。

締め切りは、2026 年 12 月 18 日（金）です。

詳しい応募要項をご希望の方は下記メールアドレス宛に「機器開発助成 募集要項希望」とタイトルをつけて下記メールアドレスまでご連絡ください。皆様からのご連絡をお待ちしています。

ご不明な点に関するお問い合わせも下記メールアドレスまでお願いいたします。

連絡先メールアドレス：kikikaiha2@gmail.com

担当：理学療法関連機器開発委員会 太田 恵

* 1 週間以上返信のない場合は、東京都理学療法士協会ホームページの「お問合せ」よりご連絡ください。

* 応募の試作品やアイデアの特許権などに関しては、当会では関与いたしませんので、ご承知おきください。

* 明らかに商品化を前提としたご応募および広報活動とみなされる場合には、お断りすることがあります。

委員長 石川 愛香

部局紹介 エスカレーターマナーアップ推進委員会

委員長 石川愛香

「止まって乗る」から、誰もが安心して利用できる社会へ



委員長 石川愛香
森山脳神経センター病院

～エスカレーターマナーアップ推進委員会 10年の歩み～

左半身に麻痺を持つ方からの「エスカレーターの右側に立ち止まって乗りたいのに、歩く人の邪魔になってしまい乗れない」という切実な声を聞いたことがきっかけでした。リハビリ室で歩けるようになって、街の環境や「片側空け」の風潮が壁になって外出を諦めてしまう。理学療法士として、リハビリだけでなく“街のバリア”そのものを変えたいという思いで、2015年に委員会を立ち上げま

した。街頭アンケートから始まった活動は、啓発活動やキャンペーン、講演会、学校・企業との連携など、少しずつその輪を広げてきました。そして現在では、活動に関わるたくさんの方のご

協力のもと小学生向けの教材づくりや子どもたちとのイベント、さまざまな立場の人との座談会など「伝える」だけでなく「一緒に考える」活動へと発展しています。

★年表：主な活動内容、実績 総勢20名のメンバーとともに！

2015-2019 活動のスタート、そして社会へ

- ・2017年6月 | 第36回東京都理学療法学会大会併催イベント 街頭アンケート
活動のスタートとなった街頭アンケート。エスカレーター利用についてさまざまな人の声を集約
- ・2018年6月 | 講演会「すべての人が暮らしやすい未来をつくる」
都内の小中学生による「止まって乗るエスカレーター」標語大賞を企画
- ・エスカレーターマナーアップ推進委員会のキーホルダー完成 無料配布開始
- ・2018年11月 | 「チャレンジ！東京 for 2020 エスカレーター止まって乗りたい人がいる」
東京2020参画プログラム
- ・2019年 | 活動の輪が広がる
各種プレゼンテーションや地域イベントへの参加、「安全・安心なエスカレーターの乗り方教室」などを実施。学校、企業、地域など、さまざまな場所で啓発活動を実施
- ・エスカレーターマナー動画公開 <https://youtu.be/MRBqxaKEEMM>



2020-2021 社会の変化の中でも、調査と発信

- ・2020年9月 | 「エスカレーターの乗り方 with コロナ」緊急アンケート調査
新型コロナウイルス感染症の流行により、人々の生活や公共空間の利用方法が大きく変化
エスカレーターの利用についても改めて調査を実施
- ・2021年3月 | 「エスカレーター止まって乗りたい人がいる」シンポジウム開催
- ・2021年9月 | 中日新聞社広告大賞 審査員特別賞受賞。活動を通じた発信が評価される



2022-2023 「伝える」から「一緒に学ぶ」へ

- ・2022年 | 小学生向け道徳教材の作成プロジェクトをスタート
エスカレーターの安全な乗り方を一方的に教えるのではなく、「なぜ止まって乗るの?」「困っている人はどんな気持ち?」と、子どもたち自身が考えられる教材づくりを進めました
- ・2023年 | 国際化プロジェクトにも取り組み、小学生向け教材を完成
特設サイトより無料提供開始。 <https://www.pttokyo.net/esca/>
子どもたちを対象とした夏休みイベントを現在も継続して開催。「エスカレーターの正しい乗り方を伝える」ことから、「相手の立場を想像し、一緒に考える」ことへ広がっていきました



2024-2026 さまざまな立場の人との「対話」そして実り

- ・2024 年 | 教師との座談会
- ・2025 年 | WCPT イベント、夏休みイベントの
当事者・子ども委員との座談会実施
英文のエスカレーターマナー動画追加
URL : <https://youtu.be/6FBq6xhKgIQ> Q
- ・2026 年 | 東京都より心のバリアフリー好事例企業に
公表。ルールを「伝える」だけでなく、
さまざまな立場の人の声を聞き、互いに理
解しながら考えていくことが大切です

～10 年間で、活動はどう変わった?～

「知ってもらう」

街頭アンケート、ポスター、講演会、キャンペーンなど
を通して、エスカレーターの安全な利用について発信



「つながる」

学校・企業・地域など、さまざまな人や団体と連携し、
活動の場を拡大



「一緒に学ぶ」

小学生向け道徳教材やマンガ教材などを通して、子ども
たち自身が考える機会を創出



「対話する」

教師、子ども、当事者など、さまざまな立場の人との座談会を通して、「誰もが暮らしやすい社会」について思案



～10 年間の歩みを、これからの活動へ～

エスカレーターの「乗り方」を伝えることから始まった
私たちの活動 10 年間で、多くの人と出会い、さまざまな
場所で対話を重ね、活動の形も変化してきました。

「止まって乗る」という一つの行動の先にあるのは、困っ
ている人への想像力や、お互いを思いやる気持ちです。

これからもエスカレーターをきっかけに、誰もが安心し
て暮らせる社会とは何かを、一緒に考えていきます。



<エスカレーターマナーアップ推進委員会>

- 各種お問い合わせ (Mail) : esca.pttokyo@gmail.com
- Facebook URL : <https://goo.gl/nnXZcQ>
- X (旧 Twitter) : URL https://twitter.com/tomanoru_esca
- まんが教材 特設 HP : <https://www.pttokyo.net/esca/>
- エスカレーターマナー 動画
- 英文動画 URL : <https://youtu.be/6FBq6xhKgIQ>
- 日本語動画 URL : <https://youtu.be/MRBqxaKEEMM>



<特設 HP QR コード>

報告者：石川愛香
(森山脳神経センター病院)

エスカレーターマナーアップ推進委員会

委員長：石川 愛香

インクルーシブ教育体験イベント「共生社会ってなんだろう?」、心のバリアフリー連携会議 開催報告

日時：2026年8月2日（日） 会場：BPM イベントスペース（世田谷区）

★教育体験イベント 13：30～16：00 対象：小学校3年生～6年生

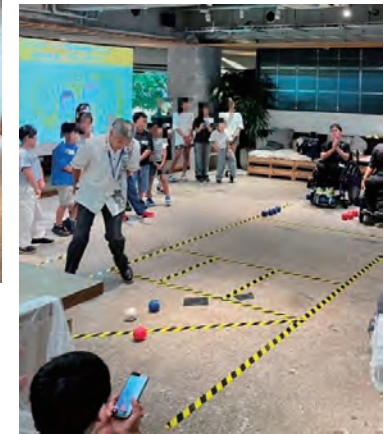
例年無料開催しているインクルーシブ教育体験イベント「共生社会ってなんだろう?」を今年も開催しました。4回目となる今回のイベントは、特別支援学校鹿本学園ボッチャ部の生徒2名を講師兼スタッフ、当事者の方2名をファシリテーター、例年参加していただいている6年生の小学生を運営スタッフとして招き、小学生参加者、保護者、スタッフをあわせて、約100名の参加によるイベントとなりました。現役の小学校の先生3名には講師をして頂き、例年にも増して多様性に富んだイベントとなりました。

ボッチャ部の生徒にはボッチャの細かなルールや技の説明を分かりやすくしていただき、子どもたちが楽しく体験することができていたと思います。また、本会が作成したまんが教材「わけがあってこちら側に止まっています～心のバリアフリー～」を活用したワークショップでは当事者としての思いも伝えていただき、私たちや保護者も含め貴重な機会となりました。子どもたちは、いろんな人の立場となってエスカレーターの乗り方や思いを一生懸命考え、発表している姿はとても印象的でした。



まんが教材 特設 HP：

<https://www.pttokyo.net/esca/>



★心のバリアフリー連携会議（座談会）17：00～19：00

対象：東京都心のバリアフリー好事例企業

参加企業：株式会社ネオキャリア、大島椿株式会社、東京都理学療法士協会

教育イベントに続き、小学生委員、当事者の方、特別支援学校の生徒も交え、心のバリアフリーを実践する企業の取り組み例や困りごとなどを共有致しました。初めての試みでしたが異業種、多世代の交流として新しい視点や横のつながりなど共生社会のヒントを模索することができたと感じます。良い刺激も頂き今後の展開に活かせるようにしていきたいと思います。



報告者：村田敬明（大久野病院訪問看護ステーション）

エスカレーター「歩かず立ち止まろう」キャンペーンの実施について

今年も 2026 年 7 月 21 日(火)～8 月 31 日(月)の期間で、全国の鉄道事業者 58 社局・(公社)東京都理学療法士協会を含む 7 団体や商業施設、自治体と共同で、エスカレーターの安全利用を呼びかけるキャンペーンを実施しています。

このキャンペーンはエスカレーター利用者が安心・安全に利用できるよう歩かず立ち止まる、手すりにつかまることを呼びかけるキャンペーンとなります。期間中は駅構内等でポスターを見かけることも多いと思います。エスカレーターをご利用になる際に、バランスを崩して転倒されたり、駆け上がったたり駆け下りたりすることで他のお客さまと衝突し転倒するなどの事象や、エスカレーターで歩行用に片側を空ける習慣は、左右いずれかの手すりにしかつかまることのできない方にとって危険な事故につながる場合もあります。

当協会としては「歩かずに立ち止まろう」「手すりにつかまろう」などの呼びかけをイベントや SNS 等にて実施しています。

報告者：村田敬明（大久野病院訪問看護ステーション）



練馬区役所内におけるエスカレーターマナーアップ推進委員会の取り組み

2026年8月17日(月)～8月31日(月)の期間にて、練馬区役所本庁舎2階に大型広告を掲示し、来庁者等に対して、エスカレーターの安全かつ安心して利用するための啓発活動を実施しました。

当協会としては、「エスカレーター 止まって乗りたい人がいる」「『止まって乗ろう。』気づきと受容を。」などのメッセージを掲げ、イベントや SNS 等を通じて、エスカレーター利用時の安全意識の向上と利用者相互の理解を促す呼びかけを行っています。



報告者：黒原祐樹（多摩リハビリテーション病院）

1/23 (sat)



前日企画

PRE-CONGRESS

定員 40 名

14:00 ~ 17:30

- 実践型ワークショップ
職場巡視の実際
- シンポジウム
理学療法士がどのようにして
産業分野で活躍できるか

参加費：3,500 円 | セミナー番号 161699

※ 大会とは別事業・要個別申込



公式懇親会

定員 100 名

18:00 ~

産業保健に関わる仲間と、つながる夜
交流を深める企画を用意しています！！
奮ってご参加ください

参加費：5,000 円 | セミナー番号 161698

※ 要個別申込

第9回 日本産業理学療法研究会学術大会

産業保健の原点に還る ～労働者の Well-being を支える理学療法～

1/24 (sun) 9:00 ~ 17:00 | セミナー番号 161694

- 北九州国際会議場 JR 小倉駅 新幹線口（北口）から徒歩5分
- 大会長：久原 聡志（産業医科大学病院）

SPECIAL PROGRAM

- 特別講演1 デジタルヘルステクノロジーを活用した人間工学と労働衛生管理
- 特別講演2 産業ストレス対策の最前線
- 教育講演 治療と仕事の両立支援における理学療法士の役割
- ランチタイム
セミナー テクノロジーを用いた次世代の転倒リスク計測と産業保健分野への活用
- シンポジウム 高齢労働者の転倒災害予防 ～労働衛生の三管理の視点から～

詳細
参加登録はコチラ



大会ホームページ

<https://jspoh9th.jp>

第9回 産業理学療法研究会学術大会

主催：日本理学療法学会連合 日本産業理学療法研究会

お問合せ：日本産業理学療法研究会学術大会 運営事務局

info@jspoh9th.jp

渉外局医療報酬部主催 講習会開催の報告

『新人理学療法士のための診療報酬基礎知識』

講 師：東京都理学療法士協会 医療報酬部部長 廣瀬幸子

日 時：2026 年 6 月 4 日 オンライン開催

対 象：理学療法士、理学療法士養成校学生

参加者：167 名

内容：

本講習会は、理学療法士の知識・技術向上と適切な診療報酬請求の実践を目的として開催した。あわせて東京都理学療法士協会への入会促進の観点から、新入職員の非会員については、入会意思がある場合に限り無料で受講できる仕組みとしました。協会の活動については、本会会長の豊田より紹介を行いました。事前アンケートでは、参加者の 6 割以上が所属施設において診療報酬に関する十分な研修機会がないと回答しており、基礎から学ぶニーズが高いことが明らかとなりました。講習会では、診療報酬の社会的背景や制度の仕組みや構造、疾患別リハビリテーションといった基礎的内容に加え、本会や日本理学療法士協会、厚生労働省のホームページを活用した情報収集の方法など、自己学習につながる具体的な手段についても紹介しました。本講習会を通じて、理学療法士が安心して診療報酬業務に取り組める環境づくりに寄与し、ひいては都民に対する医療の質の向上につながることを期待されます。医療報酬部では、継続的に講習会を開催するとともに、本年 10 月には令和 8 年度診療報酬改定調査を実施予定です。ご協力の程よろしくお願いいたします。

報告者 廣瀬 幸子（玉川病院）

ライフサポート部主催講習会 事業報告

【医療職だからこそ知っておきたい、妊娠出産とからだの変化】

日時：2026 年 6 月 14 日

講師：大林松乃（Mom's labody まむずらぼてい 代表）

場所：Zoom を使用したオンライン開催

対象：理学療法士（申込 35 名／当日参加 28 名）

本講習会は、妊娠期・産後の身体や心の変化を理解し、就労継続やよりよい職場づくりにつながることを目的に企画しているものです。TPTA ライフサポート部としては 3 回目の開催となり、毎回ご好評をいただいている講習会です。今回は大林松乃先生を講師にお迎えし、妊娠・産後の身体変化に加えてキャリアプランの視点も取り入れた、より充実した内容となりました。

講義では、妊娠期のホルモン変化や身体のメカニズム、腰痛・恥骨痛など起こりやすい症状についてわかりやすく解説していただきました。また、メンタルヘルスやキャリアアンカーとの葛藤など、働く理学療法士にとって身近なテーマにも触れられました。

後半のグループワークでは、職場での工夫や悩みを共有し合い、「自分の職場でも学びを活かしたい」「他の療法士さんの働き方が参考になった」といった声が寄せられました。一方で「オンラインでは話し合いがしにくい」「もっと時間がほしかった」という意見もあり、今後の開催方法を検討する良いきっかけとなりました。

妊娠・出産を経ても働き続けるためには、当事者だけでなく、管理者や支援者も含めて、身体だけでなく心や働く環境について考えていくことが大切であることを改めて感じる時間となりました。今後も学びのある研修会を企画していきたいと思います。

ライフサポート部では都士会員の就労支援や労務管理に関する取り組みを企画・運営しており、これらに関心のある方・一緒に企画・運営をしてくださる仲間を募集しています。ご興味のある方は、下記メールアドレスまでご連絡ください。

lifesupport@pttokyo.net

報告者：永見倫子（東京科学大学）

都民向けイベント開催報告

去る6月20日(土)東京都薬用植物園(東京都小平市)にて「セラピストによる心と身体が動く園芸リハビリテーション」と題した都民向けイベントを開催致し、多くの方にご来場頂きました。

前半は運動領域認定理学療法士である佐藤涼先生より「フレイル」に関する講義と予防のための体操を実演頂き、後半はそのフレイルの予防に於いて効果的とされる「園芸リハビリテーション」について現在、園芸療法士として御活躍中の河原崎胸崇雄先生から講義、実演をして頂きました。フレイルの講義においては皆さま、真剣に耳を傾け予防体操にも笑顔で楽しんで取り組んでいる姿が見受けられました。また園芸リハビリについても草木に触れる中で参加者の生き生きとした表情が大変印象的でした。

今回は初めての試みとして公益法人東京都生薬協会および東京都作業療法士協会が共催となつての事業開催となりました。今後も各団体と連携しつつ理学療法士の専門性が地域の活性化に貢献できるよう事業を開催して参りますので宜しくお願い致します



報告者 小澤伸治 健康増進部



西多摩南多摩ブロック部
学術集会・症例検討会 実施報告

日時：2026 年 7 月 18 日（土）

15：00～16：50

会場：東京たま未来メッセ

第 2 会議室および第 3 会議室

2026 年 7 月 18 日（土）、東京たま未来メッセにて、西多摩・南多摩ブロック部主催の症例検討会が開催された。例年は冬の一回の実施としていたが、後期研修中の会員からの発表及び聴講ポイント需要の高まりを受け、今年度初めての試みで夏・冬の二回の開催となった。症例検討会は 2 会場で実施され、神経 3 演題・運動器 2 演題の計 5 演題が発表された。両会場とも多くの参加者が集まり、西多摩・南多摩ブロック以外に留まらず他県士会や他職種からの参加者も認め、各会場ともに活発な質疑応答や意見交換が行われた。



報告者 浅野雄太（多摩丘陵リハビリテーション病院）

西多摩南多摩ブロック部
青梅市支部研修会 開催報告

日時：令和 8 年 7 月 9 日 (木) 18 : 30 ~ 20 : 00 WEB (ZOOM)

テーマ：膝関節外科専門医が教えます！

今日から自信持ってできる徒手整形外科テスト（膝関節編）～ TKA の最前線まで～

講師：高木病院副院長・整形外科統括部長・青梅膝関節センター長 三箇島吉統医師

参加者：PT127 名 (内都士会 84 名)

青梅市支部では、膝関節外科とスポーツ整形の二刀流でご活躍の三箇島医師を講師にお招きし、表題の研修会を開催いたしました。講師による徒手整形外科テストの検査動画を用いて、病態や症状を加えながらの解説はイメージが沸きやすく、明日からすぐ実践できる内容であり参加者より大好評でした。また、膝関節外科のトレンドについて、ACL 再建術、HTO について術式のメリット・デメリットを丁寧に解説していただきました。PT が術式を理解することは PT プログラムや予後予測に大きく関わることだという学びを得ました。さらに先生は医師より「リハビリへ治療のバトンを渡すこと」をポイントに、TKA のトピックス 10 個についてエビデンスを交え講義されました。中でも、問題となりやすい術前後の腫脹・疼痛・血栓対策など、患者様を少しでも良い状態でリハビリ部門へ繋げられるようにといった、医師視点での取り組みをご報告され、PT としても質の高いリハビリの提供にむけて、日々の研鑽が必要だという教訓をいただきました。第二部では質疑応答を行い臨床に関する疑問を解決し、一方通行ではない活発な双方向性の研修会となりました。

当支部では今後も領域のスペシャリストをお招きし、PT が「明日からの臨床に活かしていける」テーマの研修会企画・運営を行い、都民の方々へ貢献して参ります。



報告者：松浦純一（青梅三慶病院）

区東北部・区東部ブロック部

江戸川区支部 江戸川区民の健康支援 リハビリ体操教室の活動報告

日 時：2026 年 6 月 28 日（日）

会 場：江戸川区 葛西区民館 2 階 健康スタジオ

講 師：笠原 剛敏（東京臨海病院）

アシスタント：理学療法士 6 名

参加者：4 名

内容：

40 歳以上の区民の方を対象に、リハビリ体操教室を開催しました。「肩こり予防・改善の取り組み」と題し、講義、体操指導を行いました。講義は、首こり・肩こりとなる原因、首こり・肩こりになりにくい姿勢・活動について解説しました。体操は、首こり・肩こりにならない・凝りを和らげるための筋の伸張性・柔軟性・筋活動を実際に体操をしながら、参加者個々の課題を個別指導しながら行いました。参加者からは積極的に質問、疑問を頂き、自宅に帰られても、体操が継続できるようにアドバイスをしました。多くの参加者から、大変満足頂けるご意見を多数頂きました。



報告者：笠原 剛敏（東京臨海病院）

区西北部ブロック部

【活動報告】北区支部 理学療法士による介護予防体操教室

日 時：令和 8 年 5 月 28 日（木）

会 場：東京都障害者総合スポーツセンター体育館

講 師：渡邊祐介

アシスタント：高橋勇貴先生（東京北医療センター）、六鹿健児先生（東京北医療センター）
向家知宏先生（浮間中央病院）

参加者：11 名

内 容：

東京都障害者総合スポーツセンター 介護予防体操教室（第 1 回目）

本年度も、東京都障害者総合スポーツセンターにて、介護予防を目的とした体操教室を年 5 回の予定で開催いたします。その第 1 回目となる今回は、「自重を用いた椅子に座ったままできる運動」をテーマに、教室を実施いたしました。

今回は片麻痺などの麻痺がある方とその他の障害がある方の 2 グループに分けて運動を実施しました。参加者の状態に合わせて実施し、教室開始時には「立てない」と言われていた方も教室終了時には自信を持って立てるような変化も見られました。

今後の教室でも、楽しみながら継続できるような運動プログラムを工夫し、より多くの方々にとって意義ある時間となるよう努めてまいります。引き続き、教室を盛り上げていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。



報告者：渡邊祐介（東京脊椎クリニック）

区西北部ブロック部 北区支部
【活動報告】 理学療法士による介護予防体操教室

日時：令和 8 年 7 月 16 日（木）

会場：東京都障害者総合スポーツセンター体育館

講師：渡邊祐介先生（東京脊椎クリニック）、

アシスタント：高橋勇貴先生（東京北医療センター）、六鹿健児先生（東京北医療センター）

向家知宏

参加者：9名

内容：このたび、東京都障害者総合スポーツセンターの介護予防教室として、障害のある方々を対象に、理学療法士の渡邊祐介先生を講師にお迎えし、体操教室を開催いたしました。今回はノルディックポールを使ったエクササイズを中心に実施し、参加者9名を2つのグループに分けて行いました。

はじめに、有酸素運動の効果や実施方法、効果的に行うためのポイントについてご説明いただいた後、準備体操を経て実際の運動へと移りました。ノルディックポールを使ったダイナミックなストレッチや筋力トレーニングを行った後、最後は参加者全員で音楽に合わせながら有酸素運動を実施しました。

参加者の皆さまからは、「普段伸びていないところが伸びている感じがする」「体が軽くなった」「音楽に合わせて運動をすると、あっという間に時間が経つので、自宅でやるにもよさそう」といった声が聞かれ、運動の効果を実感していただけた様子でした。次回以降も、楽しみながら効果的に取り組める内容を工夫し、地域の皆さまの健康づくりや介護予防につながるプログラムを提供してまいります。



報告者： 向家知宏（浮間中央病院）

区西北部ブロック部 練馬区支部
【活動報告】学校保健事業1

日時：令和8年5月26日（火）9：35～10：20

場所：練馬区立光が丘第八小学校

対象者：小学3年生32名

講師：西田喜実弥氏（練馬光が丘病院）

アシスタント：理学療法士3名

内容：

練馬区支部では、以前より学校保健事業に携わっており、理学療法士の視点から児童を対象に生涯教育を行っています。今回、小学3年生を対象に「姿勢指導」について講師依頼を頂いたため、姿勢についての講義と姿勢チェック、対策としてストレッチの実技を中心に実施しました。講義の前半は、姿勢を保つために必要なこと、良い姿勢と悪い姿勢の違い、良い姿勢のメリットと悪い姿勢のデメリットを、写真を用いながら分かりやすく伝えました。有名スポーツ選手の様々な姿勢の写真を活用することで、児童も興味津々であり、積極的に発言していました。後半は、頭の重さ体験、自分の姿勢チェック、片足バランステスト、良い姿勢を保つために必要なストレッチといった実技を中心に行いました。理学療法士4人で児童ひとりひとりの姿勢を確認し、わかりやすく簡単にフィードバックを行うことで、姿勢への理解を深めていきました。児童からは「頭の重さが予想以上に重くてびっくりした」、「自分の姿勢があまり良くないことに気付いて良かった」「これから姿勢をもっと気を付けようと思った」などの声が聞かれました。今回の講義が姿勢の重要性について少しでも多くの児童に伝えられたのならうれしく思います。また、理学療法士が講義・実技を通し、学童期の生涯教育に携わることは、姿勢への関心や介助を必要としている人への手助け、配慮を行えるきっかけを作ることができると感じ、今後も積極的に学校保健事業に携わっていきたいと考えます。



報告者：久保川優（介護老人保健施設ライフサポートひなた）

区西北部ブロック部 練馬区支部
【活動報告】学校保健事業2

日時：令和8年6月5日（金）

場所：練馬区立大泉小学校

対象者：小学4年生3クラス

講師：高柳竜馬氏（慈誠会・練馬高野台病院）

アシスタント：理学療法士11名

【内容】

練馬区支部では、小学校の先生方からの依頼を受け、学校保健事業の一環として小学校での講演会や児童への授業を継続して行っています。今回、小学4年生を対象とした車椅子体験と視覚障害体験を依頼され、慈誠会・練馬高野台病院の高柳竜馬氏が講師を担当しました。授業の前半はスライドショーを見ながら講義形式で「理学療法士とは？」「車椅子・視覚障害について？」について説明を行いました。途中で質問をしたり、挙手して積極的に参加する姿勢が見られました。授業の後半は車椅子自走コース、車椅子介助コース、視覚障害体験コースに分かれて実技を行いました。車椅子コースではキャスター上げや不整地な場所での走行を体験し、「思った以上に大変」など苦戦しながらも決められたコースを上手く回っていました。視覚障害体験コースではペアを組み介助者と被介助者に分かれ、不整地歩行や階段昇降の体験をしました。どちらの体験も身体にハンデを抱える方の体験と、介助者がどのような声掛けをすれば良いかを工夫しながら取り組む様子がありました。

今後も小学校での学校保健事業を継続し、小学生に理学療法士の役割や活躍について知っていただくとともに、福祉用具や身体障害についての知識を理学療法士として広めていきたいと考えています。



報告者：阿部 勝俊（医療法人社団 翔洋会 辻内科循環器科歯科クリニック）

区西北部ブロック部 練馬区支部

【活動報告】学校保健事業3

日時：令和8年7月9日（木） 8:45～12:30

場所：練馬区立練馬第三小学校

対象者：小学校教職員5名、在校生（5年生3クラス）93名

講師：久保川 優 氏（ライフサポートひなた）

アシスタント：理学療法士5名

内容：

練馬区支部では、以前より学校保健事業に携わらせて頂いており、理学療法士という専門的な立場から児童たちの健康増進や総合学習の一環として障害者や高齢者への理解向上等、生涯教育の支援を行っています。今回、練馬区立練馬第三小学校の5年生3クラスに対し、各クラス1時間の授業内で怪我予防講座を実施しました。

講義内容は、「障害」、「外傷」2つの違いから、成長期における怪我のリスクや要因、発生しやすい外傷等について、参加型での講義で児童でもわかりやすいよう説明を行いました。発生しやすい外傷としては「突き指」、「捻挫」に焦点を当て、発生機序や予防策等を説明後、理学療法士の補助の元で予防のためのセルフストレッチを指導しました。また、体前屈やしゃがみ込みテストにて自分の柔軟性を確認してもらい、ストレッチ後に効果判定をすることでストレッチの重要性について身をもって体験してもらうことができました。

練馬区支部では、今後もこのような学校保健事業を継続的に行い、児童や生徒に理学療法士という職業を知って頂き、学校教育の場においても理学療法士が活動できる一助となればと思います。そして、今回のような怪我予防講座を通して、怪我への理解や予防の重要性について一人でも多くの児童に理解をしてもらい、児童の健やかな成長を支援していきたいと思っています。



報告者：高柳 竜馬（慈誠会・練馬高野台病院）

【活動報告】杉並区ユニバーサルタイム

日程:4月26日,5月16日,5月20日,5月30日,6月3日,6月20日,7月1日,7月22日,7月29日,8月1日,

・場所:荻窪体育館、上井草スポーツセンター、永福体育館

・理学療法士:延べ33人

スポーツ局スポーツ支援・推進部では、杉並区が実施する地域スポーツ事業「ユニバーサルタイム」へ理学療法士の派遣協力を継続して行っています。ユニバーサルタイムは、障がいの有無や年齢に関わらず、誰もが同じ場で安心して身体を動かせる環境づくりを目的とした取り組みであり、参加者は身体状況やご希望に応じて種目を自由に選択することができます。

今回の活動では、体育館での軽運動やボール種目に加え、グラウンド・ビーチコートなど、多様な環境でのプログラムが実施されました。理学療法士は安全面への配慮を行いながら、参加者それぞれの身体機能や感覚特性、理解度に応じた運動支援を実施しました。

また、暑熱環境下での実施となる時期であったことから、ユニバーサルタイムのスタッフによる熱中症対策が徹底されていた点が印象的でした。空調や送風機による室温・湿度の管理、こまめな給水時間の設定、休憩スペースの確保、参加者の体調確認や声かけなど、活動前から当日の運営に至るまで一貫した配慮がなされており、参加者がより安全に、そして安心して運動を楽しめる環境が整えられていました。理学療法士も、参加者一人ひとりの表情や動作の変化、発汗や顔色などから体調の変調を早期に把握できるよう留意し、必要に応じて運動量や休憩のタイミングを調整しました。障がいのある方の中には、暑さや体調の変化を自ら訴えることが難しい方もおられるため、こうした環境整備と多職種による見守りが、安全な運動参加を支える基盤となることを改めて実感しました。

今後も杉並区および関係機関と連携し、誰もが安心して運動に参加できる環境づくりと社会参加の促進に寄与していきたいと考えております。最後に、本事業にご協力いただいた関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



報告者:スポーツ支援・推進部 平良寛朗(池上総合病院)

【活動報告】青山学院大学フェンシング部サポート

- ・日時：2026年5月16日、5月23日、6月6日、7月4日
- ・会場：青山学院大学
- ・参加数：延べ90名
- ・参加スタッフ数：延べ7名

青山学院大学フェンシング部のサポート活動では、主にトレーニング指導や怪我に対しての個別相談への対応を行っております。トレーニング指導では、監督や選手の意見をもとに、より競技特性の高いメニューの指導に力を入れております。一方で、5月から1年生が本格的に練習に参加するようになり、リーグ戦終了に伴いチームとして一区切りとなる時期でもあるため、再度トレーニング姿勢の確認や基礎的体力の向上を目指したトレーニング指導も行っております。初心者から競技レベルの高い選手まで様々な競技レベルの選手が所属しているため、トレーニング負荷や強度についても細かく指導しております。

怪我への個別相談では、慢性的なものから急性外傷まで幅広く対応しております。選手からは「月2回も見ていただけるのは心強い」といったポジティブな意見も出ており、理学療法士として改めてこの活動への関わりの必要性や意義を感じております。

今後も、選手や監督と意見交換を図りつつ、怪我なく選手1人1人が納得した結果が出せるよう全力でサポートさせていただく所存です。



【活動報告】えどがわパラスポーツ体験会サポート

- ・日 時：2026年7月25日（土）
- ・場 所：江戸川区スポーツセンター
- ・来場者：216名、対応者：25名、相談件数：1名、参加理学療法士数：3名

江戸川区では昨年に引き続き、障害者のスポーツ促進を目的とした「えどがわパラスポーツ体験会」が開催されました。その中で、運動相談ブースの運営ならびに競技体験サポートを行いました。江戸川区内で教室事業として開催されている各団体の方々のブースが設置されました。また今回は東京マラソン財団の「DUO（デュオ）バギー」のPRブースもありました。実際に自力での走行が困難な方がバギーへ乗車し、もう1人がバギーを押し、2人1組での走行を体験しており、走る喜びを感じておられました。

今回、参加された50代女性、片麻痺の方のサポートを行わせていただきました。参加前は「私に出来ることはあるのかしら？」と参加する前は自身の身体機能に自信を無くしているようでした。しかし、車椅子バスケットやピククルボールを体験後は「私にだって出来るんだ」「もっと出来ることを増やしたい」など、自身の身体機能に自信を持ち、今後江戸川区の事業に参加していきたいと前向きな意見が聞かれました。

イベントを通じて、『スポーツの力』を実感し、誰もがスポーツを楽しみ、コミュニケーションの輪が広がることで、社会とのつながりを持てるようになることを経験することができました。今後も理学療法士として地域の方々の社会活動や共生社会が広がるよう、支援を続けて行きたいと思いをします。



報告者：小野瑞穂（森山記念病院）

【活動報告】EDORIKU パラ陸上教室サポート

- ・日程 2026 年 5 月 23 日、6 月 20 日
- ・会場江戸川区陸上競技場（スピアーズえどりくフィールド）
- ・参加者：延べ 9 名 ・派遣人数：延べ 7 名

江戸川区と東京マラソン財団の協賛による「EDORIKU パラ陸上教室」の第二回・第三回が開催され、サポート活動に参加いたしましたので、ご報告いたします。

6 月 20 日に開催された第三回では、雨天のため少人数での開催となりました。参加者と相談しながら、雨が弱くなるタイミングを見計らってレーサー走行や 100 m 走の計測を実施し、その後は座学を行いました。理学療法士として、教室開始前にレーサー車椅子の準備、参加者への準備体操、レーサー車椅子への移乗介助、シーティング設定、走行サポートを中心に行いました。少人数での開催のため、参加者一人ひとりの様子を確認しながら、安心してレーサー走行を楽しんでいただけるようサポートしました。新規参加者に対しては乗り心地や操作性を確認しながら細かくシーティング調整を行いました。その結果、レーサー走行の楽しさを感じていただくことができ、「今後も継続して参加したい」との声をいただきました。また座学では、『日本パラリンピックの父』と呼ばれる中村裕医師が行ったパラスポーツの発展について学びました。今後も参加者の安全に十分配慮しながら、パラ陸上競技を楽しんでいただけるようサポートするとともに、スポーツを通じて身体を動かす楽しさを伝えていきたいと思ひます。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



報告者：小栗円香（池上総合病院）

【活動報告】江戸川区パラスポーツ初心者教室サポート報告（2026年6月～8月）

- ・日程：2026年6月7日、7月5日、7月19日、8月2日
- ・会場：東部区民館、中平井コミュニティ会館、葛西区民館、文化スポーツプラザ、江戸川区総合体育館、小松川さくらホール
- ・参加者総数：延べ50名、・派遣者総数：延べ17名

江戸川区で継続的に開催されている「パラスポーツ初心者教室」は、車椅子利用者や病気・怪我などによる身体機能の変化により運動に不安を感じる方が、安心して身体を動かし、スポーツを楽しめる場として実施されています。運動機会の提供だけでなく、参加者同士の交流や地域での活動につながる場として、継続的に開催されています。

教室では、フリースレーニング、ボルレッジ、マイティーポールを中心に、ボッチャや卓球など、会場や参加者の身体機能に応じたさまざまな運動を行っています。参加者の身体機能や運動状況に応じてチーム分けを行う一方、全体で取り組む時間も設けることで、競技や運動を通じた自然な交流が生まれています。理学療法士は、参加者の身体機能や当日の体調を確認しながら、安全に運動へ取り組めるようサポートしています。麻痺のある方には、把持しやすいようカバーやラバーを活用するなど、身体機能に合わせて用具や運動環境を調整しています。また、夏季にはこまめな体調確認や水分補給、運動量の調整を行い、体調不良がみられた際には休憩やバイタルサインの確認を行うなど、安全面に配慮しながら活動を支援しています。今後も、指導者や地域のスタッフと連携しながら、理学療法士として参加者一人ひとりの身体機能や体調に合わせた安全な運動環境を支えていきます。安心してスポーツに挑戦できる場をつくることで、継続的な運動習慣だけでなく、参加者同士のつながりや地域での新たな活動へとつながる教室づくりに貢献してまいります。



報告者：スポーツ局 スポーツ支援・推進部 安達瑠那（森山記念病院）

【活動報告】フェンシング大会サポート

- ・日時：2026年5月23日、5月24日、5月30日、5月31日、6月6日、6月7日、6月13日、6月14日、7月4日、7月5日、7月24日～26日（延べ16日間 ＊5月31日、6月7日、6月14日は2大会実施）
- ・会場：大蔵第二運動場体育館、駒沢オリンピック公園屋内球技場、台東リバーサイド、江戸川区総合体育館、練馬区光が丘体育館
- ・派遣者数：延べ31名
- ・参加者数：延べ2523名

スポーツ支援・推進部では日本フェンシング協会様、東京都フェンシング協会様、日本学生フェンシング連合様、関東学生フェンシング連盟様、江戸川区フェンシング協会様、練馬区フェンシング協会様よりご依頼をいただき、5月から7月にかけて16回のフェンシング大会サポートを実施しました。

5月から7月は江戸川区、練馬区の区民大会の大会サポートのご依頼もあり、小学生からシニア世代まで多くの大会サポートを行ないました。

5月からは気温もあがり、熱中症のリスクも高くなります。フェンシングは防護服を着用するため、屋内での活動でも体温があがりやすく更に熱中症のリスクが高くなるスポーツです。サポートスタッフは人材育成部主催の研修会で熱中症の予防と対応を実践したうえで現場での活動を行っております。

今後も引き続きスポーツ現場で必要な知識・技術の研鑽を行ないながら現場で活動し、安全にスポーツを楽しめる環境を整えて行きたいと思っております。



報告者：スポーツ支援・推進部 生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）

【活動報告】東京バリアフリービーチ 2026

- ・日時：2026年8月9日
- ・会場：葛西臨海公園西なぎさ
- ・派遣者数：3名
- ・参加者数：7名

本年度も東京バリアフリービーチの活動に参加してまいりました。

東京バリアフリービーチは、障がいのある方でも安全に海水浴を楽しめる活動です。砂浜でも車椅子が移動できるようなモビマットや砂浜でも移動可能なマリンチェアを使用して海水浴を楽しんでいただきました。

当日は7名の利用者とそのご家族に参加していただきました。例年参加されている方も多い中、今回は初参加の方が1名いらっしゃいました。海水浴は2回目とのことでした。

最初の海水浴は家族の介助で行ったためとても大変だったとのことでしたが、今回参加したバリアフリービーチでは海水浴を行うのに必要な道具がそろっており、またボランティアスタッフもいたため安心して海水浴を楽しむことができましたとの感想をいただきました。

今回参加していただいたサポートスタッフの方々に感謝いたします。誠にありがとうございました。





● 定員10名 ● 先着順完全予約制
 参加申し込みについては下記にご連絡ください。
tokyobfbeach@gmail.com
● 日時：8月9日（日）10:00～16:00
● 場所：葛西臨海公園 西なぎさ
※多目的トイレあり



心のバリアフリーサポーター募集中!

- バリアフリーゾーンの設置・開催中のサポート
- 全日参加できなくても構いません
- 医療、介護の知識がなくても大丈夫です
- ボランティア登録は右のQRコードからお願いします→

主催：東京バリアフリービーチ実行委員会
 お問い合わせ先：▶▶▶ tokyobfbeach@gmail.com ▶▶▶





報告者：スポーツ支援・推進部 生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）

【認定者報告】2026 年度 第3回認定スクールトレーナー養成講習会

開催日時：2026 年 8 月 1 日（土）、8 月 2 日（日）

会 場：芝浦工業大学 豊洲キャンパス

受講者：久木田詩穂実、向家知宏、横山智

この度、運動器の健康・日本協会が主催する第3回認定スクールトレーナー養成講習会が開催されました。全国から 149 名が参加され、東京からは 3 名の先生が参加され、認定試験にも合格されましたので、報告させていただきます。学校保健事業が活発化する中、皆さんで協力しながら進めていければと思います。以下、養成講習会に参加された先生方のコメントを記載させていただきます。

○理学療法士の可能性を、子どもたちの未来へ。

今回の養成講習で全国の仲間と実技やグループワークを通して楽しく学び合い、貴重な時間となりました。試験に合格した今、この経験を糧に、引き続き子どもたちの健康と安全・笑顔を守るサポートに全力を注ぎ、この活動を多くの方に知っていただけるよう努めます。

<医療法人財団健貢会 総合東京病院 リハビリテーション科 久木田詩穂実>

○子どもたちの「今の健康」を「未来の健康」に繋げていくべく ScT での専門的な学びと経験を活かし、運動の楽しさと健康の大切さを伝え、子どもたちの未来を支える活動に全力で取り組んで参ります！

<医療法人社団博栄会 浮間中央病院 向家知宏>

○2 日間の対面講習会を通じて、スクールトレーナーに必要な専門知識と技術を学ぶ貴重な機会となりました。今後は学校保健事業において地域の皆様と協力し、子供たちの健康増進に尽力してまいりたいと思います。

<株式会社 MEDICAL COLOR 横山智>



報告者：渡邊祐介（子どもの健康・安全部／東京脊椎クリニック）

「認定スクールトレーナー（ScT）事業」

【活動報告】府中市立府中第九中学校夏休みストレッチング企画説明と実技講習会

開催日時：2026 年 7 月 8 日（水）

15 時 30 分ー 16 時 30 分

会 場：府中市立府中第九中学校 武道場

対 象：体育科教諭

参加者数：30 名

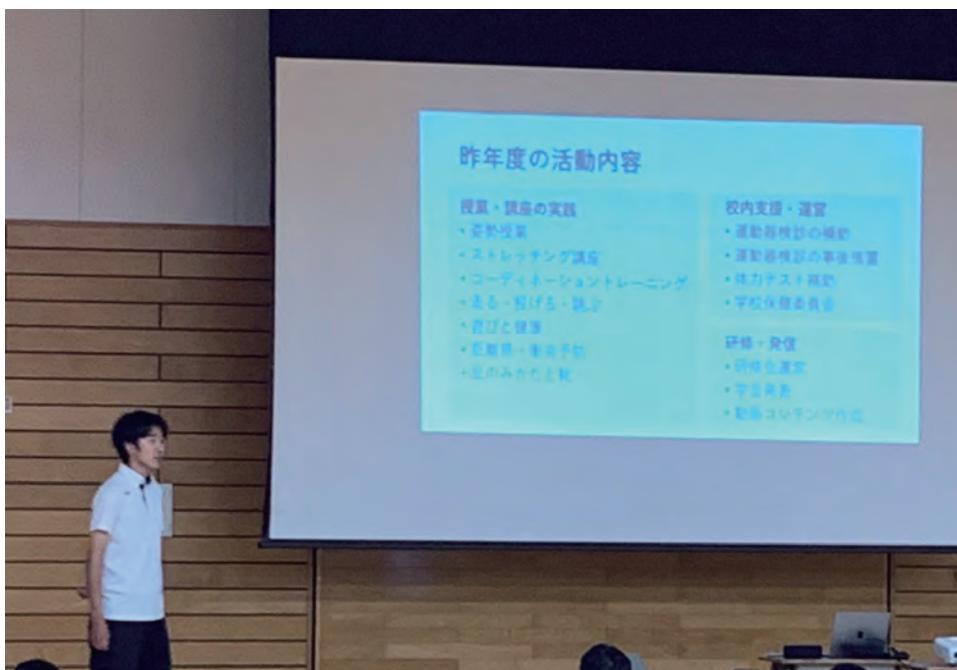
講 師：森本孝則

参加スタッフ：板倉尚子、尾崎庸宏

このたび、府中市教育研究会より「夏休みストレッチング企画の説明と実技講習会」のご依頼を頂き、実施して参りました。

今年度、府中市立府中第九中学校では、生徒が主体となってストレッチングの内容を考案し、解説動画を作成しました。この動画を活用して、夏休み期間中に全校生徒がストレッチングに取り組むという企画が進行しています。そこで、府中市教育研究会の先生方に、このストレッチングの目的や具体的な方法をより深く体験・理解していただくため、本講習会を実施致しました。

ストレッチング自体は普段の授業などで行い慣れた内容かとは思いますが、理学療法士としての専門的な視点や注意点をお伝えしたところ、普段から意識されていた先生だけでなく、「初めて知った」という先生方も多くいらっしゃいました。参加した先生方からは「改めて今後の授業等でも意識して取り入れていきたい」とのコメントをいただきました。



最後になりますが、このような貴重な機会をいただきました府中市教育研究会の皆様にご心より感謝申し上げます。今後とも児童生徒の健康増進に繋がる活動を継続してまいりたいと考えております。

報告者：森本孝則

(Physical Care Room T)

「認定スクールトレーナー（ScT）事業」
【開催報告】大原児童センター「カラダのひみつ教室」

開催日時：2026 年 7 月 4 日（土）

14：00～15：00

会 場：大原児童センター 3F

対 象：幼児、小学生、保護者

参加者数：12 名

講 師：鈴木亨之先生（長汐病院）

参加スタッフ / 齋藤弘樹・渡邊祐介・森本孝則・酒井大将・相本彩名

内 容：

品川区の大原児童センターにて「カラダのひみつ教室」に参加させて頂きました。当日は、0 歳～小学 3 年生までの子ども達と、

保護者を含めて 12 名の方々が集まってくださいました。センターの 1 室を広く使い、新聞紙を使った遊びや、ボールやテープを使ったゲームなどを行い、全身を動かす 1 時間となりました。子ども達や保護者の方々とコミュニケーションをとり、一緒に運動をしながら、動作を観察しました。

保護者の中には、発達や運動についての不安や、姿勢についての疑問をお持ちの方もいました。「変な動きをされていて ...」「こんな姿勢で寝ていて ...」「物を投げるのが下手で ...」など、直接保護者のお話を聞きながらそのお子さんの様子を見守ることで、書籍などでは学べない発達の細かい段階や個人差の実際を知ることができました。講座での体験や会話を経て、「不安が解消した」や「こんな短時間で変化することに驚いた」など、保護者の方から前向きな言葉が聞かれて、うれしくなりました。

今回、育児中のご家族が抱える子どもの発達や運動への心配な気持ちや疑問に直に触れ、理学療法士の視点や専門性が、その不安の軽減や問題解決の力になれると感じました。また、講座を通じて、遊びの中でいろいろな身体活動が子どもの姿勢や動作の変化につながることを学びました。子どもが順応していく力や柔軟に対応していく様子に驚きつつ、私自身も遊ぶことの楽しさを体感しました。その場が楽しくひらかれた雰囲気になることで、開始時にあった緊張感もほぐれ、恥ずかしさや遠慮もなくなって、全員の表情が明るくなり一体感が自然と生まれていました。講座で紹介されていた活動は、家庭でも気軽に行えて即実践したくなるような内容で、子ども達の気持ちを掴む工夫やアプローチの方法も勉強になりました。

今回は、乳幼児、小学生、そしてその保護者という、普段なかなか接する事のない方々と接するという貴重な体験をさせていただきました。子ども達 1 人ひとりの身体活動や発達に目を向け、子どもの健康増進を目指す活動にこれからも積極的にかかわっていきたいと思いました。また、今後は自己研鑽につとめ、育児中のご家族のサポートもできるようになっていきたいです。

このような貴重な機会を頂きました品川区大原児童センターの関係者の皆さまと東京都理学療法士協会スポーツ局子どもの健康・安全部の皆さまに心より感謝申し上げます。

報告者：相本彩名（社会医療法人社団 順江会 江東病院）



「認定スクールトレーナー（ScT）事業」
【開催報告】豊島区立富士台小学校 学校保健委員会

開催日時：2026年7月3日（金） 13：45～14：45

会 場：豊島区立富士見台小学校

出席者数：校長・副校長・栄養士・養護教諭・内科・眼科・耳鼻科・歯科医師等 計 10 名

講 師：渡邊祐介（東京都理学療法士協会 子どもの健康・安全部 部長）

参加スタッフ：齋藤弘樹（東京都理学療法士協会 子どもの健康・安全部 副部長）

内 容：

豊島区立富士見台小学校からの依頼を受け、校内の学校保健委員会に出席を致しました。学校保健委員会では、内科・眼科・耳鼻科・歯科の校医の先生から今年度の検診結果についての報告、栄養士の学校給食についての取り組み、養護教諭による児童の健康に関する報告などがされています。今回、東京都理学療法士協会の子どもの健康・安全部は、渡邊部長より、6月にサポートをした体力テストにおける各種目・学年の児童の今年度の傾向、R7年度の東京都の平均値との比較をグラフにして報告しました。ご家庭からは、姿勢や体幹の運動について質問を受けました。日常生活において環境も含めて気をつけるポイントをお伝えし、体幹運動については昨年度作成した体幹トレーニングの動画の紹介と提供をさせて頂きました。今後も学校との連携を密におこなっていき、子どもの健康や体づくりについて支援をしていきたいと思っています。



報告者：齋藤弘樹（大橋病院）

「認定スクールトレーナー（ScT）事業」
【活動報告】豊島区立富士見台小学校 体力測定サポート

開催日時：2026年6月16日（火） 8時30分～15時30分

会 場：豊島区立富士見台小学校

対 象：小学1年生～6年生

参加者数：302名

参加スタッフ：11名

内 容：

豊島区立富士見台小学校で行われた体力測定のサポートに参加させて頂きました。

当日の測定種目は①長座体前屈、②立ち幅跳び、③ソフトボール投げでした。スタッフは3ブースに分かれて、ブースごとに小学生がローテーションする形式で行われました。全学年が参加されたため、多くの小学生の測定を実施することが出来ました。サポートスタッフとしての役割は1.測定補助、2.動作パターンの評価でした。特に立ち幅跳びやソフトボール投げは動作パターンに個別性があり、運動発達や動作の習熟といった観点で興味深く感じました。何より元気に一生懸命テストを行う小学生の姿にこちらまで元気をもらいました。

子どもたちの体力低下やスポーツ参加への二極化などの課題が挙げられる昨今、動作の個別性を評価し運動を修正することや、けがを予防することは我々理学療法士が学校保健領域に協力できる取り組みの一つだと感じています。取り組みを継続していくことで教育現場との信頼感の構築がなされること、子どもたちへの介入の可能性が広がることを実感しています。運動器の健康・日本協会の認定スクールトレーナー制度も始まり、理学療法士による教育現場や学童期への介入の可能性をより一層考えつつ、今後の活動も支援していきたいと思います。

このような貴重な機会を頂きました豊島区立富士見台小学校の関係者の皆さまと東京都理

学療法士協会スポーツ局子どもの健康・安全部の皆さまに心より感謝申し上げます。

報告者：久保田純弥（聖路加国際病院）



「認定スクールトレーナー（ScT）事業」

【活動報告】府中市教育研究会「中学校教員向け コーディネーショントレーニング研修」

開催日時：2026年8月5日（水）9時00分～10時00分

会場：府中市立府中第九中学校 武道場

対象：体育科教諭

参加者：23名

講師：森本孝則（Physical Care Room T）

参加スタッフ：鈴木享之・岡田進太郎・富樫幹史・黒田章也・尾崎庸宏

参観：板倉尚子

この度、府中市教育研究会において、「中学校教員向け コーディネーショントレーニング研修」をテーマにご依頼いただき、講話を実施しました。

当日は、日本スポーツ振興センターの事故事例のデータベースより中学校でのケガの発生状況とコーディネーショントレーニングの7原則をお伝えした後に、実際に先生方にコーディネーショントレーニングを体験してもらいました。体験してもらうことによりどの能力を交えた運動なのか体感していただきました。

活動中から、先生方から「授業のウォーミングアップで取り入れよう」という声も上がっていました。活動後には、「能力別ではどのような運動があるのか」「紹介された運動を派生させる運動はあるのか」などの質問や感想をいただきました。本取り組みが学校現場での生徒の発達につながる可能性を感じる機会となりました。

今後も、各学校の実情やご要望に応じながら、学校保健事業の充実に努めてまいりたいと考えております。このような貴重な機会を与えてくださいました府中市教育研究会の皆様、並びにご協力いただきました理学療法士スタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。



報告者：尾崎庸宏（Luz 大森整形外科）

「認定スクールトレーナー（ScT）事業」
【活動報告】練馬区立春日小学校「夏休み企画 走る・投げる教室」

開催日時：2026年7月30日（木） 10：00～11：45

会 場：練馬区立春日小学校 体育館

対 象：学童クラブに通う小学1～3年生

参加者数：児童 62 名

講 師：渡邊祐介（東京脊椎クリニック）

参加スタッフ / 齋藤弘樹・久木田詩穂実・渡邊達也氏・松永輝生氏・笠井千裕氏

内 容：

練馬区立春日小学校の夏休み企画として、「走る・投げる教室」を実施しました。子どもたちが遊びを通して、走る・投げる動作のコツを身につけられるよう、さまざまな運動遊びを取り入れたプログラムを行いました。

走る動きでは、スキップや腿上げなどのウォーミングアップに加え、新聞紙を胸の前に当てて走る運動を実施しました。新聞紙を落とさず走ることで、自然と良い姿勢や効率的な身体の使い方を意識できる内容となっており、休憩時間にも「どこまで落とさずに走れるか」と自主的に挑戦する子どもたちの姿が見られました。

投げる動きでは、紙鉄砲を使って腕を素早く振る感覚を体験した後、新聞紙を丸めたボールで相手陣地の紙コップのお城を崩すチーム対抗ゲームを実施しました。子どもたちは夢中になって何度もボールを投げ、楽しみながら自然と投球動作を繰り返していました。

教室終了後には、学童クラブの先生方から「子どもたちが思い切り体を動かすことができてよかった」との感想をいただきました。また、子どもたちからも「楽しかった」「もう一度ゲームをやりたい」とアンコールがあるほど好評でした。遊びの要素を取り入れることで、子どもたちが主体的に楽しみながら、走る・投げる動作を繰り返し実践し、そのコツを身につけられるよう指導することができました。



報告者：久木田 詩穂実（総合東京病院）

【活動報告】パパといっしょにあそぼう @ 区民ひろば千早

日程：2026年4月25日（土）、5月16日（土）、6月6日（土）

場所：豊島区 区民ひろば千早（NPO 法人はばたけ千早）

参加者：2歳～未就学児のお子さんとお父さん（合計22組、47名）

講師：鈴木享之先生（長汐病院）

アシスタント：森本孝則先生（Physical Care Room T）酒井大将（山王リハビリ・クリニック）

内容：

今年度も区民ひろば千早様よりご依頼いただき、「パパといっしょに遊ぼう」講座を開催いたしましたのでご報告いたします。

新規・継続問わず多くのご親子にご参加いただき、講師陣とともに笑顔あふれる時間となりました。

本講座では、身体の使い方や遊びのポイントをお伝えするとともに、ご自宅でも振り返っていただけるよう配布用のプリントを準備しております。

私たちが最も大切にしているのは「全力で褒める・楽しむ」ことです。

初めは照れや戸惑いの見られるお父さん方も、鈴木先生のお手本を真似て実践することで「褒める力」が飛躍的に向上し、大きな変化が窺えました。

また、終了後の個別相談は、お父さん方の不安や疑問の解消にもつながっています。

このような取り組みを全国へ広げ、お父さん方の育児参加と子どもたちの輝かしい未来に貢献できるよう、今後も講座のブラッシュアップに努めてまいります。

ご興味のある方は、ぜひお気軽にご参加ください。



報告者：酒井大将（山王リハビリ・クリニック）

【活動報告】パパといっしょにエンジョイタイム @ 区民ひろば朋有

日程：2026 年 4 月 18 日（土）、6 月 20 日（土）

場所：豊島区 区民ひろば朋有

参加者：2 歳～未就学児のお子さんとお父さん（合計 14 組、31 名）

講師：鈴木享之先生（長汐病院）

サポーター：向家知宏先生（浮間中央病院）、酒井大将（山王リハビリ・クリニック）

内容：

以前、別施設で所長をされていた方に本取り組みをご紹介したご縁から、その方が「区民ひろば朋有」へ異動されたタイミングで事業のご依頼をいただきました。

初開催の施設ということもあり当初は緊張が見られましたが、遊びを取り入れた運動から最も大切な「全力で褒める」実践へと進める中で場も和らぎ、最後には笑顔あふれる時間となりました。初参加のお父様方は当初照れも見られましたが、講師のお手本を真似て実践し、スタッフがそれを承認（褒める）することで「これで良いんだ」という成功体験と安心感を得ていただくことができました。

わずか 1 時間の講座でしたが、最初は人見知りで緊張していた子どもたちが、終盤には自ら講師へハイタッチを求めるほど劇的な変化を見せてくれました。

身近にある物を用いた遊びのフィードバックや、自宅でも活用できるプリントの配布など工夫も凝らしております。

豊島区内での開催は 2 施設目となりましたが、こうした感動と成長の輪が日本全国に広がることで、これからの未来を担う子ども達一人ひとりの輝く未来を創り出す鍵であると確信しております。ご興味のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。



報告者：酒井大将（山王リハビリ・クリニック）



公益社団法人 東京都理学療法士協会 スポーツ局 子どもの健康・安全部

研修会①結果報告

子どもの「やってみたい!」を引き出す 運動支援の実践講座 ～小学校体育の世界～



研修会レポート

16名の会員が参加し、実技を交えた講座で「体育」の視点から運動指導を学びました。

参加者 16名 | 定員 30名

講師 谷口 こゆき 先生（東洋英和女学院小学部 教諭）

日時 2026.7.11（土） 10:00～11:30

場所 東洋英和女学院 体育館（東京都六本木5-6-14）

NPS : +27.3という結果に！

推奨度スコア（NPS）

+27.3

「良好」水準

推奨者45.5% – 批判者18.2%

参考 | アンケート回収率 68%（16名中11名）

NPS®とは？

NPS®（ネット・プロモーター・スコア）は、サービスに対する「おすすめ度（信頼度）」を測る指標です。



なぜ、この評価になったの？

01

体験型のワーク中心

飽きさせず楽しく学べる内容だった

02

「体育」という新しい視点

学校体育の視点が新鮮という声が多数

03

現場ですぐ使える工夫

特別な道具なしでできる声掛けや工夫

参加者の声

「遊びのバリエーション、新聞紙1つで表現遊びにもなるところが目から鱗でした！」
「病院では体験できない運動・考え方を学べ、新たな視点で運動を考えられた。」

今後も学校保健研修会を企画していきますので、ぜひご参加ください！！

作成：子どもの健康・安全部 部長 渡邊祐介

スポーツ外傷研修会 開催結果報告

スポーツ現場で役立つ！急性期対応について

～急性期対応時、どう動くかを実践形式で学ぼう～



日時
2026年7月28日(火)
19:00～21:00



会場
東京体育館
第2会議室



講師
板倉 尚子 先生
鈴木 享之 先生



定員
20名

申込率

100%
20名 / 20名

アンケート回答率

80.0%
16名 / 20名

平均推奨度

★ 8.81 / 10
(16名の平均)

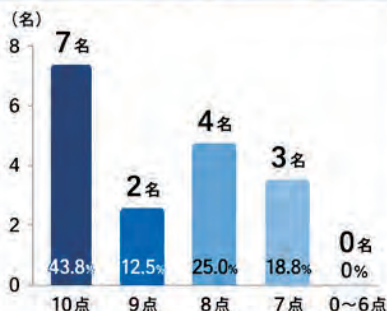
♥ NPS® (ネット・プロモーター・スコア)

+56

(非常に高い評価)

※NPS®の計算式：推奨者（9～10点）の割合 56.3% - 批判者（0～6点）の割合 0% = +56.3（四捨五入）

他者への推奨度（NPS）分布



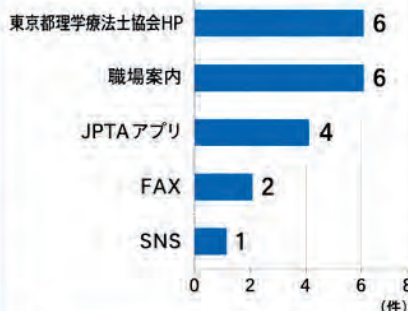
推奨者
(9～10点)
9名
56.3%

中立者
(7～8点)
7名
43.7%

批判者
(0～6点)
0名
0%

NPS: +56
(非常に高い評価)

集客経路（複数回答）



考察

- 協会HPと職場案内が最も集客効果が高かった
- JPTAアプリも一定の集客力を示した
- SNSからの参加は少なく、今後の広報強化が期待される



今後希望するテーマ（上位）

- 1 膝靭帯損傷
- 2 テーピング
- 3 肉離れ
- 4 脳震盪
- 5 他部位の外傷
- 6 初期対応の応用編

興味のあるスポーツ局事業（複数回答）

- ⓧ 競技スポーツ支援 11名
- 🏃 部活動支援 9名
- 🏫 学校保健活動 8名
- 🚲 パラスポーツ 7名
- 🌐 地域スポーツ 6名

スポーツ局全体への興味につながる研修となりました。



良かった点（自由記述まとめ）

- ✓ 実技中心で理解しやすかった
- ✓ シミュレーション形式で実践的だった
- ✓ 少人数で丁寧な指導が受けられた
- ✓ 包帯・固定方法を直接学べた
- ✓ 初期評価の流れが理解できた

改善点

- ✓ 資料が欲しかった
- ✓ 時間に余裕が欲しい
- ✓ さらに多くの症例を経験したい

否定的意見は少なく、大部分は「もっと学びたい」という前向きな要望でした。

研修効果（PRE→POSTの変化）

研修前(不安・課題)

- 何を評価すれば良いか曖昧
- 骨折の判断が不安
- 急性期対応の流れがわからない
- 固定方法に自信がない

研修後(理解・スキル向上)

- 初期評価の流れが理解できた
- 問診・観察手順を整理できた
- 骨折疑い時の対応が理解できた
- 固定・包帯技術が向上した
- 「診断ではなく評価する」という考え方を理解出来た

研修当日の様子（写真ベース）



総括



今回の研修会は、参加率 80.0%、アンケート回答率 100%、平均推奨度 8.81点、NPS+56と高い満足度を示しました。特に実技・シミュレーション中心の構成が高く評価され、参加者は急性期外傷対応の流れや初期評価、固定技術に対する理解を深めることができました。一方で、膝外傷、脳震盪、肉離れなど応用編の開催を望む声も多く、今後の継続的な教育プログラムへの期待が示されました。



報告者：スポーツ局人材育成部 小野瑞穂(森山脳神経センター)

明日から使える足関節テーピング研修会

— 回外捻挫の評価・鑑別・固定を実技で学ぶ —



会期
2026年7月7日(火)
19:00~20:30



会場
東京体育館
第二会議室



講師
生井 真樹 先生
(理学療法士)



定員
30名



開催概要

定員

30名

参加者

31名

定員を1名上回る参加!

参加率

103.3%

(31名 / 30名)

アンケート回答数

21名

回答率

67.7%

(21名 / 31名)

推奨度 (NPS) 分析 回答: 21名

平均推奨度

★ 8.19
/ 10

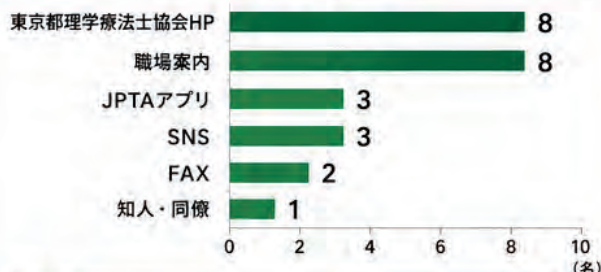
NPS (ネット・プロモーター・スコア)

+26
(非常に良い評価)

区分	点数	人数	割合	説明
😊 推奨者	(9~10点)	10名	47.6%	積極的に他者へ勧めたい
😐 中立者	(7~8点)	7名	33.3%	どちらともいえない
😞 批判者	(0~6点)	4名	19.0%	勧めたいとは思わない

※NPSの計算式: 推奨者(9~10点)の割合47.6% - 批判者(0~6点)の割合19.0% = +26

集客経路 (複数回答)



考察

- 協会HPと職場案内が最も集客に効果的でした。
- SNSやJPTAアプリからの参加も一定数あり、広報の多様化が進んでいます。
- FAXからの申し込みは減少傾向にあります。



良かった点 (自由記述より抜粋)

- 実技が豊富で分かりやすかった
- 少人数で質問しやすかった
- 丁寧に指導していただいた
- 明日から臨床で使える内容だった
- 評価から固定まで一連で学べた

改善点 (自由記述より抜粋)

- ヒールロックの手技が難しかった
- 復習できる資料が欲しい
- 実技の時間をもう少し長くしてほしい

今後希望するテーマ (上位)

- 膝外傷
- 肩外傷
- 肉離れ
- 股関節
- スポーツ現場での初期対応
- テーピング応用編

興味のあるスポーツ局事業 (複数回答)

- 競技スポーツ支援 13名
- 部活動支援 6名
- 学校保健活動 4名

- パラスポーツ 3名
- 地域スポーツ 3名

スポーツ局全体への
関心向上につながる
研修となりました。



研修会の様子



総括



今回の研修会は、参加率103.3%、回答率67.7%、平均推奨度8.19点、NPS+26と、定員を超える参加があり、足関節テーピングに対する関心の高さがうかがえました。実技中心の構成が高く評価され、明日からの臨床で活用できる内容として多くの学びを提供できました。



報告者: スポーツ局人材育成部 岩山睦(浮間中央病院)

熱中症対応研修会 開催結果報告

～現場での判断・初期対応～

判断は準備で決まる！その時に備えた“実践”を！



会期 2026年6月9日(火) 19:00～20:30	会場 東京体育館 第一会議室	講師 渡邊 祐介 先生 (理学療法士)	定員 30名
-----------------------------------	----------------------	---------------------------	-----------

開催概要

定員 30名	参加者 23名	参加率 76.7% (23名 / 30名)	アンケート回答数 15名	回答率 65.2% (15名 / 23名)
-----------	------------	-----------------------------	-----------------	-----------------------------

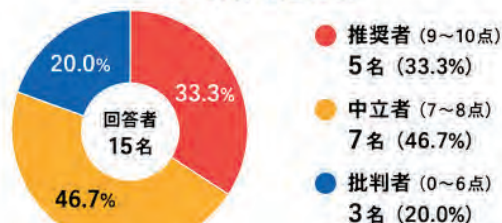
※定員に対する参加率および、参加者に対するアンケート回答率を示しています。

KPI (研修評価指標)

平均推奨度
7.87 /10
 (15名の平均)

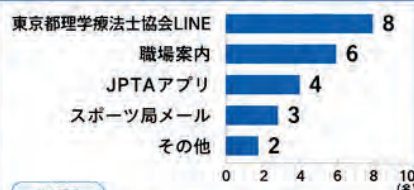
NPS (ネット・プロモーター・スコア)
+13
 (やや改善の余地あり)

NPS分析 (回答 15名)



NPS = 推奨者の割合 - 批判者の割合
 $33.3\% - 20.0\% = +13$

集客経路 (主な結果)



考察

- 協会媒体や職場からの集客が中心となった
- JPTAアプリも一定の効果があつた
- 今後も多様な広報媒体の活用が重要

良かった点 (自由記述より)

- 実技を体験できた
- 実演が分かりやすかった
- 現場を想定した内容だった
- OS-1とスポーツドリンクの使い分けが理解できた
- 理論だけでなく実践まで学べた



改善点 (自由記述より)

- 症例シナリオを事前共有してほしい
- 実技時間を増やしてほしい
- より詳細なケーススタディを希望



今後希望するテーマ (自由記述より)

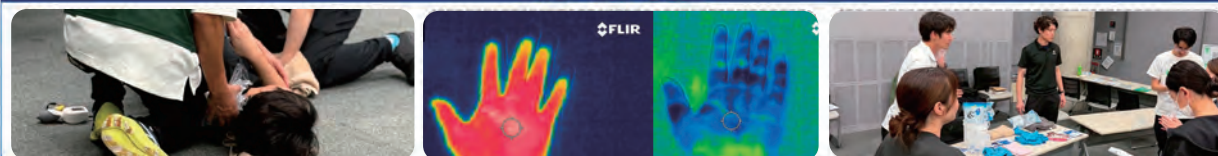
- テーピング
- スポーツ外傷
- 応急処置
- 成長痛予防
- 外傷対応

総括

今回の研修会は、参加率76.7%、アンケート回答率65.2%、平均推奨度7.87点、NPS +13という結果となりました。参加者からは「実技が分かりやすく現場を想定できた」「判断基準が理解できた」といった評価が多く寄せられました。一方で、ケーススタディや実技時間の充実を求める意見もあり、次回以降はシナリオ演習や症例検討を取り入れることで、さらなる満足度向上が期待されます。



研修会の様子



今後も、現場で役立つ実践的な研修を企画・提供し、スポーツ現場の安全と支援力向上に貢献していきます！

報告者:スポーツ局 人材育成部 向家知室(浮間中央病院)

2026年度

スポーツ現場にて起こりうる 外傷への対応と搬送法について 研修会

アンケート結果のご報告

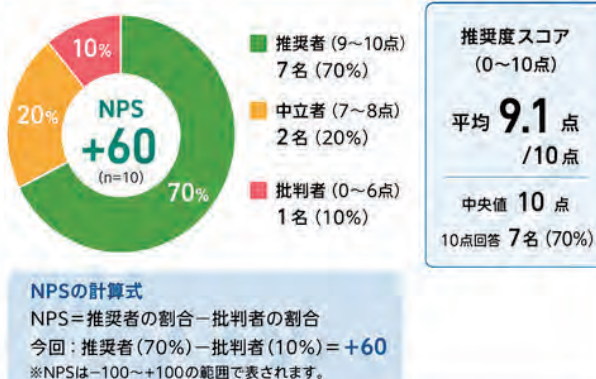
2026年 開催の本研修会にご参加いただき、誠にありがとうございました。
受講者の皆さまから寄せいただいたアンケート結果をまとめましたので、ご報告いたします。



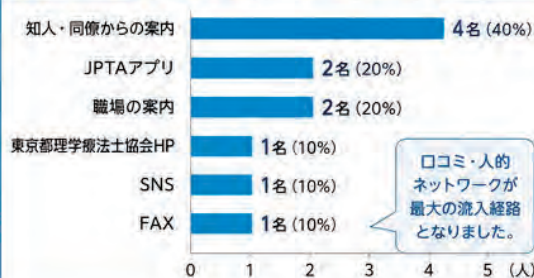
1. 参加・回答状況



2. 他者への推奨度 (NPS)



3. このセミナーを知った経路 (複数回答可)



4. 良かった点 (自由記述より抜粋・要約)

- 実技を通して搬送法を実際に体験できた
- スクープストレッチャーなど、普段の臨床では経験しにくい機器を使用できた
- BLS・救急搬送・頭部外傷対応を実践的に学べた
- 少人数で講師に質問しやすかった
- 実技実演が多く、現場での動きや連携をイメージできた
- 臨床だけでなく日常生活の救命場面にも応用できる内容だった
- 認定証が発行されたことが良かった



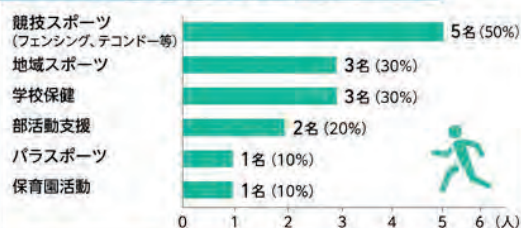
5. 改善点 (自由記述より抜粋・要約)

- 指導者による説明の質のばらつき (学生担当グループは分かりづらかった)
- グループ間の距離・音環境 (隣のグループの音が混ざり、説明が聞き取りにくかった)
- 競技特異的な対応を扱ってほしい (フェイスシールド装着競技でのCPR、頭部固定、搬送法 等)
- 技能テストについて、研修会内で説明があると良い
- 時間は長いと思っていたが、実際にはちょうどよかった／コンパクトで良かった

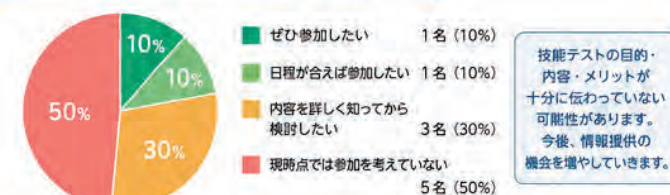
6. 今後受講したいテーマ (自由記述より抜粋・要約)

- | | |
|--|---|
| テーピング
足関節・膝関節、土日開催希望 | 競技特異的救急対応
防具装着競技でのCPR・固定・搬送 |
| 熱中症対応
次年度の再受講希望 | 大会活動の振り返り
アジア大会等の画像・症例・活動レビュー |
| 骨折・脱臼への応急処置
転倒、スポーツ外傷、事故への対応 | |

7. 興味のあるスポーツ局事業 (複数回答可)



8. スポーツ局主催技能テストへの参加意向



総合まとめ



推奨度平均9.1/10、NPS+60と、研修内容に対する満足度は高く評価されました。特に「実技中心」「少人数」「現場での再現性の高さ」が強みとして挙げられました。一方で、運営面や技能テストへの導線などに改善の余地がありました。今後も、皆さまの声を活かし、より実践的で役立つ研修を目指してまいります。



報告者：スポーツ局人材育成部 江野澤優

【参加報告】「東京都障害者スポーツ大会陸上競技」のコンディショニングサポート

令和8年5月30日、駒沢競技場にて行われた、第27回東京都障害者スポーツ大会のコンディショニングサポートスタッフとして参加しました。

この大会は、東京都・公益社団法人東京都障害者スポーツ協会が主催となっており、障がい者の自立促進や社会交流、スポーツ振興に寄与することを目的としていることから、様々な動機で大会に参加されている方が多い印象を受けました。

当日は競技前、競技後に競技者の希望に合わせて20分程度のコンディショニングサポートをマンツーマンで実施しました。競技者からは、「効果がありましたよ。」「競技前にみてもらうのは大事ですね。」といったコンディショニングに対してポジティブな意見を聞くことができました。

前年度からリピートしてコンディショニングサポートを受けられる方も多く、競技者や都民と



の交流が広がり、障がい者スポーツにおける理学療法士の必要性の認知、相互理解につながる活動になっているなと感じられました。

報告者：
諏訪雅之（第一病院）



執筆投稿規定

1. 学術研究論文
2. 教育関係論文
3. 症例報告論文
4. 行政及び士会運営に関する論評等

【投稿者の資格】

公益社団法人東京都理学療法士協会会員に限る。但し会長が依頼した場合この限りではない。

【投稿原稿の条件】

投稿原稿は他誌に発表、または投稿中の原稿でないこと。本規定に従って作成すること。

【著作権】

本誌に搭載された論文の著作権は東京都理学療法士協会に属する。

【研究倫理】

ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。

【原稿の採択】

原稿の採択は複数の査読者の意見を参考に編集委員会において決定する。査読の結果、編集方針に従って原稿の修正を求めることがある。また、必要に応じて編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。

【執筆規定】

1. 論文構成

- 1) 標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語、略称は用いない。
- 2) キーワード：標題及び要旨から3個を抽出する。不十分な場合は本文から補充する。
- 3) 著者名、所属名
- 4) 要旨：「目的」「方法」「結果」「結論」を含めて400字程度で記載する。
- 5) 本文：下記の各部分から成り立っていることを原則とする。

① はじめに（序論、諸言、まえがき等）

② 対象および方法（症例紹介）：倫理的配慮を記述すること。

③ 結果

④ 考察

⑤ 結論（まとめ）

⑥ 文献：引用文献のみとして本文の引用順に並べる。本文の該当箇所の右肩に一連番号を付ける。引用文献の著者氏名が3名以上の場合、最初の2名を記載し、他は「・他」あるいは「et al.」とする。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、号、頁、西暦年号の順に記載する。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、発行所名、発行地、年次、頁を記載する。

< 表記例 >

・藤田信子, 榎田康彦・他：椅子座位における側方傾斜刺激に対する頸部・体幹・四肢の筋活動一筋電図学的分析. 理学療法学, 17:27-30, 1990.

・Sepic, S.B, Murray, M.P, et al.: Strength and Range of motion in the Ankle in Two Age Groups of Men and Women. Am.J.Phys.Med, 65:75-84, 1986.

・真島英信, 猪飼道夫：生体の運動機能とその制御. 杏林書院, 東京, 1972, pp185-193.

・Junda, V.: Muscle Function Testing Butterworths, London, 1983, pp224-227.

6) 図表

原寸でそのまま掲載する（作図や縮小はしない）。図の番号および標題は図の下に、表の場合は表の上につける。本文と図表は分けて作成し、表・図・写真の挿入位置を本文の右欄外に指示する。

2. 原稿規定分量

原則として400字詰め原稿用紙20枚・8000字以内とする。

3. 文字表記

原則として現代かな使い、数字は算用数字、単位は国際単位系（SI単位）を用いる。

4. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

5. 表紙頁、著者頁

執筆投稿規定

論文には表紙頁と著者頁をつける。表紙には標題、キーワード(3個)、本文ページ数、図表枚数、原稿文字数を記載する。著者頁には著者名、所属名、責任者連絡先(住所・電話番号・Email アドレス)を記載する。表紙頁、著者頁の後に要旨・本文・図表を改めて記載する。

6. ページ番号・行番号

原稿にはページ番号(最下部中央)と本文右(または左)に5行ごとに行番号を記載する。

【原稿送付方法および連絡先】

1) 原稿送付先

原則として投稿原稿一式を1つのファイルにまとめ、

電子メールに添付して下記へ送付する。上記が不可能な場合は問い合わせすること。

2) 原稿送付先および連絡先

〒189-0024 東京都小金井市中町 2-22-32

社会医学技術学院 理学療法学科

(担当者) 中山雅和

TEL: 042-384-1030

FAX: 042-384-8508

E-mail: pt_tokyo_kikanshi@yahoo.co.jp

(平成31年1月31日 改定)

編集後記

令和8年7月28日に再び熊本で大きな地震が発生いたしました。被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地は酷暑に見舞われており、二重三重のご苦勞をされていることと存じます。東京都理学療法士協会会員の中には JRAT (日本災害リハビリテーション支援協会) として主に避難所等で被災者・要配慮者の生活不活性発病や災害関連死等の予防に関する適切な対応をするため現地支援に関わっている方々がおります。9月も支援は継続すると伺っております。1日も早く日常が被災地に訪れることを願ってやみません。また9月13日には東京都立大学において第45回東京都理学療法学会大会が開催されます。より多くの会員の皆様にご参加いただきたいと考えております。(M.I.)

X



フォロワー
1,217

Facebook



フォロワー
121

Instagram



フォロワー
868

公式ライン



友だち
227

公益社団法人 東京都理学療法士協会 正会員数

11,626名 (令和8年8月25日現在)

(事務局) 〒151-0053

東京都渋谷区代々木 1-58-7 ヴェラハイツ代々木 201

Tel: 03-3370-9035 FAX: 03-3370-9036